



AREA WEB



令和7年1月15日 発行
峡東教育事務所
教育支援スタッフ（担当）
電話 0553-20-2731
Fax 0553-20-2733

PDF版はこちら

峡東教育事務所のHPに掲載中！
「エリアウェブ」で検索



11月14日人権のための講演会「わたしたちにできること～性の多様性を前提とした社会のために～」
一般社団法人にじず 古堂 達也 氏

令和6年11月14日にいちのみや桃の里ふれあい文化館において、本年度最終の峡地連活動となる『人権のための講演会』が行われました。

講演の概要は以下の通りです。詳細は『講演録』をご覧ください。

講演に先立ち、会場の皆さんにワークを行ってもらい、ジェンダーバイアスと異性愛中心主義について理解をしました。

1. 性の多様性とは

人の性のあり方を構成する要素は次の5つです。

- ・ 自認するジェンダー
- ・ 出生時に割り当てられた性別
- ・ 見た目が表すジェンダー
- ・ 性的指向
- ・ 恋愛指向

これらは多様で、一人ひとり異なります。外見上の情報だけでは、その人の自認するジェンダーや出生時に割り当てられた性別は分かりません。さらに、その人がどんな性自認の相手に性的・恋愛的魅力を感じるか、あるいは感じないかは分からないのです。

『SOGI(ソジ・ソギ)』とは、Sexual Orientation & Gender Identity (性的指向と性自認)の頭文字を取った言葉です。重要なことは、『シスジェンダー』や『異性愛』も様々なSOGIのひとつだということです。もしかすると、今日この話を聞くまで、自分自身のことを『LGBTではない、ふつうの人』と思っていた方もいるかもしれません。でも、それは『ふつうの人』ではなく、じつは『シスジェンダー』や『異性愛』という名前があったのです。

2. LGBTQ+の人々を取り巻く現状

ある調査では、8.2%の人が『自分はLGBTQ+である』と回答しています。『身近にLGBTQ+の人はいない』と思っている人も、実は出会っていたけど気づいていないのではないのでしょうか。

性の多様性に関して差別的な言動について、自分に当事者性がある人は差別的・排除的な言動だと気付きやすいですが、そうでない人にとっては、それが



埼玉大学教養学部教養学科に在学中より、LGBTや多様な性に関するイベント企画や研修講師として活動されてきました。大学卒業後は、介護職員やスクールソーシャルワーカーとしてのキャリアを積み、現在は大学でジェンダー・セクシュアリティに関する専門職員としてご活躍されています。また、一般社団法人にじずのスタッフとして、2018年よりLGBTユースのための居場所づくりに尽力されています。

排除的・差別的な言動だと気付いていないということがあります。

セクシュアリティが周囲と違うかもしれないと初めて気づいた時、不安や恐れを感じたLGBTの人は7割近くになります。情報がほしい、相談したかったというニーズも54.9%あったという調査結果もあります。

特にLGBTQ+のユースの人たちはメンタルヘルスの状態が悪いということもいわれています。『学校の先生に相談できるか』と聞いたところ、『安心して相談することができない』と回答した人が93.6%いました。学校の先生など子どもに関わる大人がLGBTQ+について学ぶことには意義があります。

3. 相談を受けたときは

1つ目は『否定せずに話を聞く、勝手に決めつけないこと』です。決めつけてしまうと、ミスマッチが起こります。また、LGBTQ+のユースは非常にアイデンティティが揺らぎやすいので、『あなたが今感じていることは気のせいだよ』と否定しないでください。

2つ目は『勝手に他の人に話さないこと』です。保護者が性のあり方に関して否定的な場合もあるので、誰にどこまでの情報を共有するかということは、非常に慎重に考えていただきたいと思います。

3つ目は『どうしたいかを一緒に考えること』です。『このように対応すればいい』といったマニュアルはありません。相談を受けることがあったら、『困ってることある？』、『それはどうなったら少しでもましだと思うかな？』ということと一緒に考えてあげてください。

2016年に文部科学省が『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について(教職員向け)周知資料』を示しました。この中で、重要だと思うポイントをいくつか抜粋

します。

まず1つ目は、先入観を持たずにその時々の子の状態に応じた支援を行うことが必要です。

2つ目は、文部科学省は『性同一性障害の診断がない場合でも、学校としてできる支援を行っていく必要がある』という通知を出しています。

3つ目は、相談しやすい環境を整えていくことが望まれると言われています。保護者との関係をサポートすることも必要です。また、保護者自身も専門の相談機関を利用していただきたいと思います。

4. 〈わたしたち〉にできること

アライ (Ally) になりましょう！アライとは『LGBTQ+の人たちも暮らしやすい社会にするために積極的に行動する人』のことです。

私たちには次のようなことができますと思います。

- ・相手の性のあり方を勝手に決めつけないこと
- ・性のあり方を限定しない表現を使うこと
- ・性の多様性を尊重しない発言に介入すること



今ある男女分けを見直すこと

- (1) 制服、(2) 着替え・身体測定、(3) スポーツ
- ・多様な性に関する情報を伝えること

5. まとめ

性の多様性を理解するということは、LGBTQ+を理解するということではなく、異性愛やシスジェンダー、いわゆるフツウとされている性のあり方を含めて、私たちの存在や立ち位置を理解することだと思っています。ただ、その中で性のあり方が規範的ではない事で、生きづらさを抱えている人たちがいまだに数多くいます。異性愛やシスジェンダーをフツウ・当たり前としている社会のルールや制度を見直していく必要があるのではないのでしょうか。そして私たち一人ひとりが性の多様性について、それを前提とした言動を心がけていくことで、周囲の人々の意識や社会の仕組みも変えていけるとと思っています。

性の多様性が尊重される社会を、皆さんと一緒に作っていききたいと思います。

ボールを強く遠くに投げる～もっと楽しい体育授業で体力アップ！～笛吹市立一宮南小学校

山梨県教育庁保健体育課の「もっと楽しい体育授業で体力アップ！」事業は今年度で6年目です。県内各地の小学校で、この事業による体育の授業が行われています。9月18日に一宮南小学校で行われた授業を取材しました。



とんとんくる 上手に投げられた

輪ゴムでとめただけのものですが、輪ゴムでとめた部分をチョキで挟んで、手をパーにしてからグーでボールを握って投げます。体育館の四隅を島に見立てて、体育館を1周、ボールを投げながら島巡りから始めました。ここではうまく投げられない人も大勢いました。



跳び箱の向こうに1000点のかご

今回は2～5年生がそれぞれ1時間ずつ授業を受けました。講師はアスとれ総合型クラブの花輪和志さんと、U-sports club 山梨の塚田雄二さんの2人です。今日の目標は『ボールを強く遠くに投げられるようにすること』です。

始めに準備体操として、タオルストレッチを行いました。続いて、ボール投げです。今日はてるてる坊主に似たテルボールを使います。ソフトテニスのボールをバンダナで包み、輪ゴムでとめた部分のみのものを、輪ゴムでとめた部分をチョキで挟んで、手をパーにしてからグーでボールを握って投げます。体育館の四隅を島に見立てて、体育館を1周、ボールを投げながら島巡りから始めました。ここではうまく投げられない人も大勢いました。そこで、講師から投げ方の指導を受けます。遠くに投げるには全身を使うことが大切です。タイミングをとりながら、『とんとんくる』で体をくると回して、腕を伸ばして投げます。練習を重ねていくと、子どもたちはどんどん投げ方が上手になっていきます。



テルボールでのドッチボール

投げ方が上手になったところで、4種類の的あてゲームを行いました。練習の成果もあり、みんな楽しそうです。5年生は的あての代わりにテルボールでドッチボールをしました。たくさんテルボールを使っただけの特別ルールでした。

1回の授業だけで体力アップというわけにはいきません。今後の授業や遊びの中で、今日の学びを生かして体力アップに取り組んでいってください。



峡東教育事務所からのお知らせ



- ① 来年度の山梨ことぶき勸学院の募集が始まります。詳細は「募集要項」「山梨ことぶき勸学院ホームページ」でご確認ください。なお、令和6年度から甲府教室の名称が「甲府・峡東教室」に変更となりました。現在も峡東地区在住の方が多く在籍しています！

出願期間：令和7年2月3日（月）～3月14日（金）

出願先・問合せ先：山梨ことぶき勸学院（事務局） ☎055-233-6947



ふれあい交流事業～佐渡市と笛吹市の交流～

笛吹市教育委員会

7月31日から8月3日まで佐渡市の小学校5、6年生37人が、笛吹市を訪れ、石和鵜飼や花火の鑑賞、桃狩り、富士登山などを体験しました。また、笛吹市の児童と一緒に富士河口湖町にある富士山世界遺産センターで施設を見学し、レクレーションをする中で交流を深めました。

江戸時代初期に佐渡奉行を務め佐渡金山の全盛期を築いた鎮目惟明が、旧春日居町出身であったことを縁に、平成元年10月に旧相川町と旧春日居町が友好都市を締結しました。その後、平成2年度から両町の児童が互いに訪問し交流を深める「ふれあい交流事業」が始まりました。相川町、春日居町が市町村合併を経てそれぞれ、佐渡市、笛吹市となった現在まで、30年以上にわたり交流を続けてきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により中断していましたが、5年ぶりに佐渡市の児童が笛吹市を訪れました。来年度は、笛吹市の児童が佐渡市を訪問する予定です。



富士山世界遺産センターでのレクレーション



富士山世界遺産センターで記念写真

大切なことは夢や目標を持つこと～山梨クィーンビーズ特別授業～

山梨市立日川小学校

9月12日に日川小学校で山梨クィーンビーズ特別授業が行われました。講師はシューティングガードの濱西七海選手、コートネームはイチ。授業の始めに大切にしてほしい2つのことが話されました。それは『自分に素直になること（自分にウソをつかない）』、『夢や目標を持つこと』でした。

何人かの児童に夢や目標を聞いてみると、プロ野球選手、プロサッカー選手、ファッションデザイナーなどの声が上がりました。それに対して濱西選手は「その夢を大切にしてほしい。また、素直に言葉にして、周りの友達にその夢をわかってもらうことがとても大事だよ。」とアドバイス。

濱西選手は小学校時代に水泳選手として、ジュニアオリンピックカップに出場した経験があります。しかし、「大会で緊張してしまい、いつものタイムが出ずビリに

なってしまった。もう無理なのかもしれないと思い、水泳はやめちゃった。」と話されました。さらに、「同じ頃、バスケも1年くらいやめていた時期があった。勝てないし、つまんないと思っていた。水泳をやめたときに、急にバスケットがやりたくなった。その後、バスケを続けていくうちに、プロの選手になりたいという夢ができた。そして、それが叶った。夢が叶うかどうかは自分次第だよ。」

最後に、実際に児童たちと一緒にバスケットボールをしました。レイアップ、おなかの周りでボールを回してからシュート、フリースローなどいろいろな方法でシュート練習をした後は、男女それぞれ2チームに分れて試合をしました。

授業の後、濱西選手から次のような感想がありました。「バスケットボールのチームで講習を行うことはよくあるが、学校でバスケと関係ない子どもたちに話す経験はほとんどない。今日は子どもたちの話が聞けてとてもうれしかった。全員の夢を話してもらえたのがよかった。きっと、みんなのことを応援し合ういいクラスになると思う。」

笑顔かがやけ！！最高の仲間と！！～第33回ろう学校笛吹祭～山梨県立ろう学校

10月5日に山梨県立ろう学校第33回笛吹祭が「笑顔かがやけ！！最高の仲間と！！」のテーマのもと開催されました。昨年までは新型コロナウイルス感染症のため、開催ができなかったり、入場制限を行ったりしましたが、今回は久しぶりに大勢の来校者の前での発表となりました。

小学部・幼稚部・支援教育部の発表は、元気に楽しく演技をしている様子がとても印象的でした。中高等部の発表では、中学部はコミュニケーションをとることの難しさが、ろう学校の生徒ならではの視点で語られました。高等部は事業所での現場実習から学んだことが発表されました。さらに、ろう教育の歴史について、劇を通じて、ろう教育の現状について考え、自らが学んでいくことに対する意欲が示されました。発表の最後は中高等部全員でダンスに挑戦。会場は大盛り上がりでした。

閉祭式では一人ひとりが将来の夢を語る映像が流されました。皆さんの未来が笑顔輝くカラフルな未来になりますように。



当日のプログラム

<開祭式> アトラクション 開祭宣言
校長先生のあいさつ 生徒会長あいさつ

<学芸発表>

小学部 「王様と九人のきょうだい」
幼稚部 「そんごく」
支援教育部 「さんびきのこぶた」
中高等部 「未来は私達だ！～We wonder…～」

<展示見学>

絵画の時間や図工、美術の授業で制作した絵画や立体作品、美術部の生徒や乳幼児教育相談の子どもたちの作品、交流校の児童生徒の作品の展示。高等部の作業班が作ったコーヒーマシンの販売。

<閉祭式> 感想発表 閉祭宣言

笛吹市の誕生を祝う『おうたの給食』～笛吹市市制施行 20 周年記念給食～

笛吹市教育委員会・笛吹市立石和北小学校

笛吹市の市制施行 20 周年を記念して 10 月 11 日は市内の全小中学校で、特別メニューの記念給食となりました。メインは 9 月に市内の児童・生徒がタブレットで投票し、選ばれた『甲州ワインビーフタコライス』です。他にも芦川のこんにゃくを使ったフッキーサラダや、シャインマスカットゼリーなど市内で作られた食材を使っ



おいしい、うれしい、たのしい 『おうたの給食』

ての給食です。石和北小学校では望月栄一教育長さんが校長先生と一緒に 4 年生の皆さんと給食を召し上がりました。教育長さんも石和北小の出身だそうです。教育長さんの「今日は『おうたの給食』で笛吹市の誕生を祝いましょう」というごあいさつの後、みんなで「いただきます」。

児童たちからは「こんな豪華なメンバーで食べるの初めてだ」、「大先輩と一緒に給食が食べられてうれしい」などの声が上がっていましたが、特に大きかったのは「おいしい」の声でした。

石和北小学校の給食を調理する石和学校給食センターでは、毎月 1 回給食で各都道府県を巡る『日本全国うまいものめぐり』を行っており、今までに 45 の都道府県を巡ってきました。ある児童が教育長さんに「ぼくたちは給食で日本一周をしているんです」と誇らしげに語っていました。



本日のメニュー

勸学院祭 みんなの笑顔に 会いたくて～第 38 回勸学院祭～

山梨ことぶき勸学院

10 月 15 日に YCC 県民文化ホール小ホールにて、『勸学院祭 みんなの笑顔に 会いたくて』のテーマのもと第 38 回勸学院祭が行われました。開会行事に引き続き、異世代交流として、甲府商業高校ソングリーダー部の発表が行われました。『学園天国』にあわせたダンスでは、学院生たちも一緒に振り付けをする場面もあり、オープニングから会場は大盛り上がりでした。



『マツケンサンバ』

県内 6 教室およそ 260 人により 10 組の舞台発表が行われました。どの発表もそれぞれの教室の個性や特徴がよく表れており、シニア世代の発想の豊かさを感じるものばかりでした。それぞれの教室の所在地に関わる歌や朗読もあり、地域間の交流という点でもバラエティに富んだ発表となりました。

甲府・峡東 A 教室 2 年生はブチミュージカル『我が人生 まだこれから』、1 年生は手話付きフラダンス『見上げてごらん夜の星を』、ヒップホップダンス『さよなら またいつか！』、甲府・峡東 B 教室 2 年生は合唱『青春時代』、『ヤングマン (YMCA)』と踊り『マツケンサンバ』、1 年生は合唱『バラが咲いた』、『学生街の喫茶店』と踊り『これから音頭』を披露しました。夏から講座の日の午後を使って準備・練習を重ね、素晴らしい発表になりました。



ブチミュージカル『我が人生 まだこれから』

総合的な学習の時間における探究活動～さかしたクエスト～

笛吹市立春日居中学校・県立笛吹高等学校

春日居中学校では総合的な学習の時間に、さかしたクエストとして全校で探究活動に取り組んでいます。この活動には笛吹高校も協力しており、高校生が春日居中を訪れ、探究活動に対してアドバイスもしています。

10 月 16 日に春日居中学校で実施された公開研究会の中では、3 年 1 組で探究活動の中間発表が行われました。この日も笛吹高校の生徒 9 人が参加しました。



ここまでの探究の成果を発表

中学生が 3 人ずつの班に分かれ、各班に 1 人高校生がつきます。中学生が 1 人ずつ発表するのに対して、他の 2 人と高校生が質問をしたり、アドバイスをしたりする流れで授業が進んでいきました。

ある中学生は野球の投手として『コントロールを良くする方法』というテーマで発表しました。同じ班の生徒からは「リリースポイントって何？」など、野球の用語についての質問が多く出ました。そのこと

について高校生からは「用語の説明はスライドの下の方に小さく入れておく方法があるよ」とアドバイスを受けていました。探究の結果、「ヒップファーストを意識した結果、コントロールは良くなり、球速も体感で 5km/h ほどあがった」との結論が出ました。高校生からは「捕手や実際に打者に打ってもらった感想も入れると、結果としてよりよいものになるのでは」と助言されていました。



メモをとりながら発表を聞きます

授業の最後に高校生の代表から「探究の成果がどうしてももっと良くなるかを考えること、良くするためにたくさんのことにチャレンジすることが必要です。」という話がありました。これから最終発表に向けて、さらに探究活動が進むことでしょう。

Matsusato Music Festival 2024～小中学校の音楽による交流～ 甲州市立松里小学校・甲州市立松里中学校

10月23日に松里小学校体育館にて交流会が、ユーモアあふれる中学生の進行で行われました。

松里小の先生によるサクソとピアノのコラボ演奏「ジュピター」で幕を明け、会場中が惹きつけられました。松里小4年生の発表では綺麗な歌声と一体感のあるリコーダー演奏に感動しました。全校児童による元気あふれる校歌のきれいな歌声が体育館に響きわたりました。



さあ みんなで手をたたこう♪

松里中からは、県内唯一の弦楽編成による「音楽部」の演奏で、弦の響き、力強い演奏に心が癒されました。弦楽伴奏による全校合唱「もみじ」と校歌2部合唱では、さすが中学生という迫力のある歌声に小学生が驚いていました。

交流レクでは、歌のリズムに乗った小中学生が活発に笑顔いっぱいの交流を行いました。弦楽器体験も行われ、小学生が中学生から弦楽器の弾き方を教えてもらう姿が微笑ましかったです。

初めて触れた楽器でレトウの2つの音を弾いていると、いつの間にか「エトピリカ」の合奏に参加していて、弦を弾く音が織りなす美しさを楽しんでいました。

演奏会もいよいよ終盤です。音楽を愛する両校の校長先生のピアノとヴァイオリンで奏でられる「Whole New World」で会場がさらに盛り上がり、全員の大合唱「カントリーロード」で、元気に歌ったり、体でリズムを取ったりと、一人ひとりが音を楽しみながら終幕を迎えました。心が温かくなる、あっという間の2時間でした。



中学生が小学生に弾き方の指導

本物の芸術を身近に感じる体験～ミラマーレ・オペラ～

甲州市立井尻小学校

10月25日に井尻小学校体育館でミラマーレ・オペラによるオペラ「てかがみ」が上演されました。今回の公演では、オペラの中のいくつかのシーンに4年生から6年生も出演しました。また、公演に先立って9月にはワークショップも行われました。オペラについて学んだ後、体を使った基本的な発声練習を行い、本番の合唱と演技や振付なども練習しました。しっかりと準備を行い、当日の鑑賞および出演がよりよいものになるよう取り組んでできました。



学童疎開のシーン

本公演当日はオーケストラの伴奏で全校児童が校歌を歌いました。鑑賞上の注意を聞いて、いよいよオペラが始まりました。歌手の皆さんの素晴らしい歌声が体育館いっぱいに響き、児童たちは歌により物語が進んでいく様子を目で耳でしっかりと感じていました。

児童らが演じたシーンは結婚式のお祝いにかけるシーンや、学童疎開をする子どもたちのシーンでした。いつもの体育館がオペラの舞台に様変わりしましたが、ここまでの練習の成果を大いに発揮することができました。

終演後の児童たちの感想です。「オペラは見ている人だけでなく、やっている人も楽しいものだわかりました。」「出演したとき、少し緊張したけど楽しく終わることができました。練習から本番まで貴重な経験をありがとうございました。」「

終演後の児童たちの感想です。「オペラは見ている人だけでなく、やっている人も楽しいものだわかりました。」「出演したとき、少し緊張したけど楽しく終わることができました。練習から本番まで貴重な経験をありがとうございました。」「

学校行事を通じた交流～山梨小学校交流持久走大会～山梨市立山梨小学校・県立ろう学校

10月31日に山梨市の万力公園で山梨小学校の交流持久走大会が開催されました。山梨小学校はろう学校の交流および共同学習提携校となっており、ろう学校小学部の児童たちも参加しました。



学年ごとにスタート！

前日の雨はすっかり上がり、秋らしくなってきて持久走にはぴったりの天候でした。公園の外周 1.6km を1・2年生は1周、3・4年生は2周、5・6年生は3周走ります。大勢の保護者も見守る中、9時55分に2年生がスタートしたのを皮切りに、学年ごとにスタートをしました。ろう学校の児童たちも山梨小の同じ学年の人たちと一緒に走ります。

一人また一人ゴールに帰ってくるたびに、先生方や保護者の皆さんから「あと少しだ！」「最後までしっかり走ろう！」などの声があがりました。

声援に力をもらった児童たちは力強い足取りでゴールを目指していました。ゴールした後も「先生！10番までに入れたよ！」「来年はもっと順位を上げられるようにがんばるぞ」などの児童たちの元気な声が聞こえてきました。

走り終わって一息つくと、山梨小とろう学校の児童たちが、交流を始めていました。天候にも恵まれたため、大きく体調を崩す児童もおらず、思い出深い持久走大会となりました。



学校を超えて交流します。

秋を見つけよう～校外学習で自然観察～

山梨市立八幡小学校

ようやく秋の気候となってきた10月31日に、山梨市の万力公園で、公益財団法人日本自然保護協会理事であり、万力公園での自然観察指導の経験も豊富な植原彰先生を講師にお招きして、八幡小の1年生が自然観察を行いました。



同じ草を探せ！ここに先生のフダが

植原先生のご指導のもと、秋に咲く花の観察をしたり、ドングリにいろいろな種類があることを確認したりしていました。自生したキノコも発見し、色を見たり匂いを嗅いだりもしました。

さて、ここで植原先生から難しい課題が伝えられました。まず、先生がひとつの草にフダをつけました。課題は「これと同じ草を探してフダをつけてください」です。子どもたちは「どこにもない」「このへんにあるかも」など元気な声を上げながら探します。「あった！」の声に、先生からは「よく見つけたね」とお褒めの言葉がありました。全員が見つけたところで、これはスミレだということが伝えられます。スミレは春に花を咲かせますが、秋には閉鎖花という花が咲かないつぼみの中で種を作り、種は熟すと弾け飛び、そこから芽を出していくのだそうです。子どもたちが見つけたスミレの中にはすでに種が飛んでいたものもありました。先生は「すごいを見つけたね」と大喜びでした。

その後もマツボックリの観察や、アシナガバチの巣の観察をしてあっという間の1時間でした。植原先生にお礼のあいさつをした後、子どもたちは動物園に駆け込んでいきました。自然観察はまだ続きます。

植原先生の自然観察動画『おしえてうえちゃん！いつでもどこでも自然観察』が山梨CATVのYouTubeチャンネルで公開中です。

QRコードをスキャンして、植原先生のYouTubeチャンネルにアクセスしてください！



マツボックリの赤ちゃん。どこだ？



縦割り班で交流を深める～春日居小まつり～

笛吹市立春日居小学校

11月22日に春日居小まつりが開催されました。春日居小まつりは縦割り班ごとに考えた企画の店を運営し、縦割り班ごとに店を回り、交流を深める活動です。今年度は保護者にも参加していただく形式で実施され、当日は大勢の保護者の方々が学校を訪れていました。



ダンボールフリスビー

各教室内にさまざまなお店が開かれていました。ペットボトルボウリング、お絵描きリレー、射的、ダンボールフリスビー、後ろ向き玉入れ、紙皿リレー、ピンポンカップイン、水中コイン落とし、スリッパかご入れ、お手玉ゲーム、中でも体育館いっぱいに展開した障害物競争は圧巻でした。

「9時35分になりました。」の校内アナウンスで、一斉にお店が開店しました。

来場者にルール説明を丁寧に行っており、来ていただいた人たちに楽しんでもらおうという気持ちが伝わってきました。

各会場の入り口では「来てくださーい」「楽しいですよー」という呼び込みの声が聞こえ、会場内では成功したときの歓喜の大きな声が響いていました。

特に、射的やペットボトルボウリング、ダンボールフリスビーなどは、大人の方々も子どもに戻ったようでした。そんな中、校長先生も列に交じって、各種目を楽しみ、子どもたちと一緒に笑顔があふれていました。

ある種目では、「今のは速かったよ、すごい記録がでたんじゃない？」「先生、タイムを計るのを忘れていました」というハプニングもありました。

短い時間ではありましたが、上級生と下級生、先生方や保護者の皆さんとの交流が深まりました。



障害物競争



峡東教育事務所からのお知らせ



- ② 地域教育情報紙エリアウェブを通じて「他校種の情報を知ることができる」「連携のきっかけになる」とのお声を寄せていただいております。特別なイベントである必要はありませんので、お気軽に情報をお寄せください。（記事として紹介させていただきます。現在関係各所約300カ所に配布しています）

☎0553-20-2731（担当・直通）

- ③ 地域教育情報誌エリアウェブのバックナンバーは峡東教育事務所HPからダウンロード可能です。（「峡東教育事務所」または「エリアウェブ」で検索）